

横断歩道を渡る人たち

横断歩道を渡る人たち

作詞・作曲：桜井 和寿

目の前を横切るろうとするその老人の背中はひどく曲がっていて
歩く姿をじっと見ていると足が不自由であることがわかる
かばい続けてきた足のせいか
それとも思うように動かぬ現実
へし曲げられた心が背中まで歪めているのだろうか

横断歩道を渡る人たち 僕は信号が変わるのを待っている
昨日の僕が 明日の僕が
今 目の前を通り過ぎていく

目の前を颯爽と歩くその女の…

『横断歩道を歩く人たち』は、Mr.Childrenの楽曲で、私の好きな楽曲の一つです。

信号待ちをする「僕」が、横断歩道を渡るさまざまな人の姿を見てその人の生き方・考え方を想像したり、自分の過去や未来と照らし合わせたりするという歌詞です。

私は毎朝、『大井こども園』まで歩き、その横断歩道で交通安全を見守っています。1時間にも満たない短い時間ですが、さまざまな人とすれ違います。

自分から進んで挨拶をする人が8割くらい。多くの方が笑顔で挨拶を交わします。毎朝すれ違うことで顔見知りになり、ひと言ふた言、言葉を交わす高校生がいます。世間話をするようになった犬の散歩中の女性がいます。単なる挨拶だけでなく、そこに笑顔や会釈、何気ないひと言ふた言、そんな+α(プラスアルファ)が加わると、実に清々しい気持ちになります。

止まってくれた車の運転手に会釈をして渡る人、止まってくれた車を待たせまいと小走りで渡る人、誰かが見ていようが見ていなかろうが自転車から降りて歩いて渡る人…。そんな相手意識や安全意識をもった素晴らしい姿に、私自身のことのように嬉しくなります。

私も横断歩道を渡る姿を見ながら、その人の生き方・考え方を想像します。どんな家庭で、どんな育てられ方をしたのかな…なんてことも考えます。

自分から進んで挨拶のできない人、横断歩道なのに自転車で突っ走る人…。そんな姿を見て残念に思うし、どんな人生を歩むのかな…と、勝手に想像して心配しています。

「人の一生には かぞえきれないほど
赤の他人に会う
道を歩いていると
ほんのちよっとすれちがうだけでも
何百人かに会う
その人たちには それぞれ人生がある
—ちよっとすれちがうだけでも
それは人生のかかわりあいなのだ……」
手塚治虫『ブラックジャック』(秋田文庫)

「ちよっとすれちがうだけでも、それは人生のかかわりあいなのだ」…ちよっとすれちがうだけだけど、人生に大きな影響を及ぼすこともないとは言えません。『一期一会』という言葉があります。人との出会いを大切にすることが、自分の人生を豊かに楽しみのあるものにしてくれる…と私は信じています。

『+αの挨拶』が恵那東中の風土・風潮となり、皆さんや恵那東中にかかわるたくさんの方が、清々しい毎日を送れることを願っています。(文責:坂口栄利)



12月の予定		
2	月	PTA挨拶運動
3	火	PTA本部・実行委員会
9	月	委員会
10	火	目指せマイスタープロジェクト(2年) 第5回Shall we talk?
13	金	中体連(県大会)スケート大会 人権講演会
20	金	合唱発表会
24	火	3年生スケート教室
26	木	冬休み前集会
27	金	冬季休業日(~1/7)



【口座振替日】 12月10日, 20日